

pizzicato



ADST

Premium DS2

STRAIGHT IRON WORKS





繊細で簡単なアイロンワークで しっとりまとまるツヤ感たっぷりのストレートに

極上のストレートが実現できる「アドスト DS」に新しい機能がプラスされ、さらに進化したヘアアイロン「アドスト DS2」。
その特徴とDSとの使用感の違いなどについて pizzicato の EBINA 氏に語ってもらいました。

About ADST DS2



pizzicato 代表
EBINA氏

**操作性の良さと
進化したコーティング技術で
ワンランク上の
アイロンワークを実現！**

ハッコー「新しく機能をプラスしたアドスト DS2。従来のDSとの使用感はどのように違いますか？」

EBINA「形から言いますと、グリップのところに指をさえるためにデザインされた適正プレス位置の表示が違いますね。きちんと持つことでプレス圧が均等になります。今までは持ち方や握り方によってプレートにかかる力がムラになっていたと思うんです。親指と人差し指で押しながらプレス圧をかけるのと、ぎゅっと指全体で握ってしまうのでは全く圧が異なってしまうので。指先

てるだけのタイプだけだったので、無意識のうちにプレス圧をかけてしまいがちでした。

DS2を使ってみるとわかるのですがさらさらという感触が手に伝わってくるかと思えます。これは毛髪の表面のツヤをコントロールする工夫Ⅱサークル模様の溝が上部プレートにあるからなんです。基本的にくせ毛の場合、髪の毛がスパイラル状に大きくねじれているんですね。それを元の形に面を整えていくことでツヤがでるわけです。

従来のツルツルしたプレートでストレートにすると、表面的に真つすぐに見えても少し乱反射しているんですね。なぜかというとそのねじれが厳密に言うときちゃんと取れていないわけです。でもDS2はプレッシャーサークルが細かいねじれをキレイに整えてくれるので、ツヤ感がアップするんです。ただそのときにさらさらとした感じが伝わるんですね。その感触を嫌がる美容師さん多いと思うのですがくせ毛のねじれを取っていると理解して使って欲しいと思います。お客さまにも気になる方がいらっしやると思いますくせ毛のねじれを取り、ストレート感とツヤ感を出しているためだと説明すると安心すると思いますよ。も

profile

表参道の激戦区エリアにある人気ヘアサロン「pizzicato」代表。サロンワークを中心に、一般誌・業界誌の撮影、講習活動も行っている。薬剤にも深い知識をもち、メーカーと協力してプロダクトの開発やプロデュースを担当。

の圧でコントロールするっていうところが繊細にアイロンワークできるというのも新しいと思います。操作性の良さっていうのも今回新しく加わった機能ですね」

ハッコー「さらに進化したコーティング技術と毛髪のねじれを直すプレッシャーサークルをプラスしたのですが、はさんだ時の感覚の違いはありますか？」

EBINA「まずコーティングが新しくなったことで、DSより髪の毛がしっとりとはりつくな感覚がありますね。従来のツルツルとしたプレートのヘアアイロンだとすべりやすいので、まっすぐににならないんじゃないかという不安からついついプレス圧をかけやすいんですね。

DS2は新しいコーティングのおかげで優しく

ちろんずっとさらさらとした感触があるわけではありません。ねじれがある部分だけにさらつとした感じがするんです。だからストレートヘアの方にDS2でアイロンワークをしてもさらさらとした感触が伝わってはこないんですよ。

それと、気になっていたのですがこのサークル模様にしたデザインにも意味があるんですね？」

ハッコー「従来品より容易な操作で施術でき、仕上がりのミスを最小限にしながら短時間での艶感アップなど。これらを可能にしたいという想いで試行錯誤し、最も効果があったのが今回のサークル模様（プレッシャーサークル）という形でした。

従来品のDSの特徴を簡単に申し上げますと、①カラー液晶で容易に温度管理でき、熱ムラの防止。②下部プレートのスチームドレン2本溝が毛髪内の水分を排出。蒸気をコントロールする事で施術時の熱ムラを軽減。という2つがポイントになります。その特徴に加え、アイロン設計時の最適位置をグリップにドット模様で表示して、従来品より明確にプレス圧の均一化を促したこと、上部プレートのプレッシャーサークルが髪の毛のねじれを緩めながら施術できるので、時短と仕上がりが

テンションがかかるので、まずDSと同じようにはさんで引く張ったとしても密着度が高い感覚があるんです。しかもはさんでる感が強いので余計な圧もかけなくて済みます。だから最初から安定したテンションでスタートできるわけです。ということは均等に熱が入ることなので、今までよりも簡単にキレイなストレートヘアに仕上がりますよ。

ポイントとしてはヘアアイロンでキレイなストレートにするときは、最初にきちんと熱が入ったかどうかで決まります。不安感から何度もやられてしまう美容師さんもいらっしやるかもしれないですが、最初に入れたアイロンワークですべてが決まってしまうんです。しかも反復した部分に熱がたまってしまいうので傷む原因にもなります。でもDS2なら密着度が高いので強くひっぱりすぎたりすることもなく、均等に熱を入れることが簡単に可能なんです」

ハッコー「今まではプレス圧のかけ方によってもアイロンワークが変わってしまっていた訳ですね」
EBINA「アイロンワークにおいて髪全体に均等に熱が入るということはとても重要なことなん

の向上につながったと考えます。

お客さまの目的や要望に合わせてDSとDS2を使いこなすのも◎

EBINA「DS2のもうひとつ利点を挙げると、ストレートの持ちがいいということ。従来のストレートアイロンでは、強制的にねじれをまっすぐにしているので時間とともに戻りやすいわけです。でもDS2だと毛髪のねじれをきちんと整えてくれるので元に戻りづらいんですね。そこも新しいポイントだと思います。

DSとDS2の仕上がりの違いというと、どちらもキレイなストレートになりますがDS2の方がより髪の毛の面が整うことによって、髪全体にしっとりとしたまとまり感がでるんです。DSの方がふんわりした質感に仕上がります。

ですから、目的によってDSとDS2を使い分けるといいですね。ねじれない横ウエーブの髪質の方にはDSを使って、ねじれも加わった混合毛の方にはDS2といった風にお客さまの要望に合わせて使い分けるのもオススメです」

です。だからこそ、適正のグリップ位置表示があり、しかも密着度の高いDS2は簡単な操作でストレートパーマが可能になるので使いやすいんです」

均等に熱を髪全体に伝えることと細かいねじれを直しながら仕上げるのが同時進行で可能

EBINA「今回採用されたプレッシャーサークルはどのような発想から生まれたものなんですか？」

ハッコー「モニタリングテストを繰り返した結果サークル模様という形になりました。

この、だ円形の溝が細かく重なっているデザインで従来より容易に適切なテンションの施術と髪の毛のねじれを拾って面を整えることが同時に可能となり、少ないスルー回数で同様の効果を生み出すことが目的でした。これらが施術時間の短縮と髪へのダメージも軽減につながっていると思います。」

EBINA「確かにそうですね。従来のヘアアイロンは何もほどこされていないツルツルとしたプレートか、スチームを出すためのスリットが入っ

DSとDS2の 仕上がりの違い

右半分にDS、左半分にDS2を使用して仕上がりの違いを比較してみました。どちらもキレイなストレートヘアですが若干DS2の方がツヤ感もあり、しっとりまとまった印象に仕上がっています。



Function of ADST DS2

～ADST DS2の機能～



Pressure Circle

上部プレートの表面にほどこされた極細のサークル模様が優れたヒートスプレッド（熱拡散）効果を生みます。このプレッシャーサークルでプレス圧をより均一にしながら毛髪のねじれを直して、きらめくツヤ感のある髪に。

BICOAT[®] S2

超耐久フッ素系有機コーティングシステム

DS2に新しくほどこされたバイコートS2。2種類のフッ素樹脂をブレンドし、表面の円滑化に成功。独自のコーティング技術によって、プレス時の負荷を最適化し、よりよい密着感を実現したことでアイロン操作が容易になっています。

Steam Drain

下部プレートにほどこされた溝のスチームドレインで蒸気をコントロールします。プレス時に生じる水分を効率よく排出することで温度降下を最小限にして、施術時間を短縮。同時にお客様への不快な湯気も軽減します。

AHC

ADAPTIVE HEAT CONTROL

施術時の温度管理を常に数字と色で確認できる機能がAHCヒートテクノロジー。毛髪の状態に合わせた3種類の出力モード（ノーマル・パワー・ダメージ）の切替が簡単に操作可能です。設定温度に対して少ない温度範囲で操作することは仕上がりをコントロールする上で重要。

適正グリップ位置表示

均一のプレス圧をする上で大切なのが親指と人差し指の適正位置。ドットのサークル模様をグリップすることでより均一のプレス圧がかかります。DSの場合も同様なので、グリップする位置を常に確認して正しい持ち方をしましょう。

適正でない

適正



Steam Drain
(上・下プレート)

電気製品の安全マーク
財団法人 電気安全環境研究所認定工場
製造され、検定に合格した商品です。

ADST Premium DSの機能



BICOAT[®] S

Point of ADST DS2

～ADST DS2施術時のPOINT～

POINT 03

プレスする時は
必ず下プレートから
あててはさむ!

毛束をプレスする時は必ず下プレートからはさみましょう。下プレートで少し毛束を持ち上げる感じであててから、はさむのがコツです。このアイロンワークで根元の折れが起こりにくなり、キレイなツヤ感が実現します。



POINT 04

プレス開始時は
必ずブルー表示に
なってから!!

正確な温度でより均一のアイロンワークをするためにもデジタル温度表示は必ず確認しましょう。温度が安定している状態をブルー表示で表しているの、プレス開始時は確認することが大事です。



POINT 05

毛先で温度下降し、
赤になった場合は
ブルー表示に
なるまで待つ!

毛束をすべらせて毛先部分でデジタル温度表示が赤になった場合は、温度が下がっているということです。設定温度に戻ってブルーに切り替わったらアイロンワークを進めてください。



POINT 01

プレスする
毛束の厚みは
1～2cmが目安

プレスするときに取り出す毛束の厚みは1～2cmを目安にしましょう。毛束の量が多すぎると毛髪のねじれなどがきちんと直せず、不十分な施術になってしまう可能性があります。



POINT 02

プレスする
毛束の幅は
6～7cmでOK!

施術する毛束の幅はプレート部分からはみ出さない、6～7cmを目安に。この幅を基本とするとプレスしたときにも毛束がはみだしたりしません。プレート内で収まるようにするのが大切です。



NG

はみ出し

毛束を多く取ってしまうと、プレスしたときに毛髪がはみ出してしまいがちなので注意が必要です。



NG

両端がこぼれかけ

7cm以上の幅を取ると両端がこぼれてしまい、プレートの端に毛髪が引っかかってしまうことも。



Hair&Make

EBINA
(pizzicato)

Photo

土肥裕司

Model

堀江紗彩

Design

山谷吉立、田中清賀
(ma-hgra)

Edit

八木啓子